

である。今後の調査にまつ外はない。

ではこの政所において政治を執つたのは何時の時代であろう。その主権者はだれであろうか。徳川三百年の幕藩体制下にはある筈もなし、織田、豊臣、戦国時代、北条、足利、南北朝、源平時代、奈良、平安時代においても考えられない。奥羽の王者藤原、清原、安部の大豪族と雖も中央政権を一応頭に置いての施策であるから徒らに中央を刺撃する、こんな呼び名を以て地方一区域の政庁を遇する筈はない。とすると、相馬に起つて関東、東北を掌握して御所と称し政所と称して憚らなかつた。平親王将門の外には考えられないのである。将門の勢威の下にこの地方一帯が支配された事は伝承にもないので筆者自身瞠目した。ほんとに驚ろいた。だが将門は出羽三山に五重塔を寄進しているし勢力圏内には、真言宗の真福寺という寺も十数ヶ寺創建していると伝えられているが、逆賊として、朝廷より汚名を受けて以来、殆んど破壊され或いは改宗したとも言われるし、寺号を変えたともいわれるが、現に東京神田の大社、神田明神は平の将門を祭神として祀られた事は人々の広く知られる通りである。

ともあれ筆者の推定では、天慶三年（西歴九四〇年）今から一千三十四年前（将門死）その所の数十年間統治されたのではないかという事は非常に興味深く、また糠田を中心とした政治、経済、文化、宗教、治安の変遷なども改めて見直す必要がある様に思われる。今後更に調査を進めるにも幸に現地に屋敷跡や山上に政所跡と思われる所も残っているので、その道の専門家の調査があれば、容易に解明されると確信している。

平ノ将門の伝説を二、三紹介すると、ある日、将門を依藤太秀郷が来訪して、食膳を共にした。その食事
中、将門が飯粒を二、三落したのを拾って食したのを見て、秀郷は共に談ずるに足らずと討伐の決意をした